

アリス・ベイリー著
『テレパシーとエーテル体』

読書会 & シェア会

生命システム研究所

あんどうさわこ・根本泰行

お願い: ZOOMでの表示名を参加申し込みをした時のお名前にしてください。

大祈願

神の御心の光の源より

光をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
光を地上に降くだらせ給え

神の御心の愛の源より

愛をあまねく人の心に流れ入れさせ給え
キリスト（如来）よ、地上に戻られ給え

神の意志、明らかなる中心より

大目的が人の貧とほしき意志を導かんことを
如来は大目的を知り、これに仕え給う

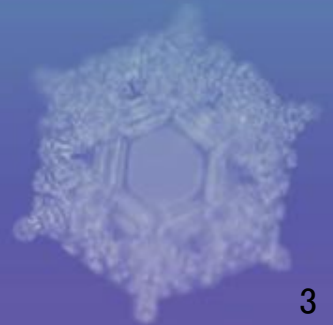
我らが人類と呼ぶ中心より

愛と光の大計画を成させ給え

悪の棲すみか処の扉を封じ給え

光と愛と力とをもて地上に大計画を復興させ給え

読書会



今日のスケジュール

読書会(21時5分位から1時間)

●担当:根本泰行

シェア会(読書会の後)

●担当:あんどうさわこ



アリス・ベイリー (Alice Ann Bailey, 1880年6月16日 - **1949年12月15日**)

神秘主義関係の作家で、神智学協会から派生した「アーケイン・スクール (不朽の知恵、秘教占星学)」の創立者。

米国では神智学協会に参加、ここでブラヴァツキーの著書に接し、協会員となった。1920年、アメリカ神智学協会働く神智学者フォスター・ベイリーと再婚。その前年、大師 (マハトマ) の**ジュワル・クール** (英語版) からのメッセージを受け取るようになったという。

1922年、夫妻はルシファー出版社 (後年、**ルシス・トラスト** (英語版) に改名) を設立。1923年、彼女は「アーケイン・スクール」 (Arcane School) という団体を創設し、大師から受けたという教えを広めた。

『**テレパシーとエーテル体**』 Telepathy and the Etheric Vehicle. (**1950**)



ジュワル・クール大師 (Djwal Khul) 翻訳書3~4頁

私は他の人々と同じような肉体をまとしてチベットの辺境に住んでいる。そして、私の責務が許すときには、（現世的な意味で）時にはチベットのラマ僧の大きな一団を統括している。私がこのラマ寺院の院長であると伝えられているのはこの事実によるものである。

私は一般の学ぶ人々よりも少しだけ長く道を歩み、そのためより大きな責任を負う、**あなた方の兄弟**である。

私を書いた本は、受け入れるよう要求することなく世に出される。それらは正しく真実で有益なものかもしれないし、そうではないかもしれない。それらが真実であるかどうかを適切な実践と直感の修練によって確信するのはあなた方の役目である。

語られていることが結果として確証に結びつくならば、もしくは、類似（対応）の法則のもとで照らし合せて正しいと思われるならば、それは申し分のないことである。しかし、そうでないならば、言われたことを受け入れてはならない。

テレパシーとエーテル体

Telepathy and
the Etheric Vehicle

アリス・ベイリー 著
AABライブラリー 翻訳・発行

第二部 エーテル体に関する教え

- 1 エーテル体の性質…………… 162
- 2 非分離の基礎…………… 172
- 3 惑星と人間のセンター…………… 184
- 4 センターとパーソナリティー…………… 192
- 5 空間の性質…………… 203
- 6 惑星生命——太陽系の一つのセンター…………… 209

アリス・ベイリー原著

https://www.lucistrust.org/online_books/telepathy_and_the_etheric_vehicle_obooks

Telepathy And The Etheric Vehicle

Sub-sections:

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 1](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 2](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 3](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 4](#)

[SECTION ONE - TEACHING ON TELEPATHY - Part 5](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 2](#)

[SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 3](#)

SECTION TWO - TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE - Part 1

TEACHING ON THE ETHERIC VEHICLE

I. THE NATURE OF THE ETHERIC BODY

See Chart Evolution of a Solar Logos

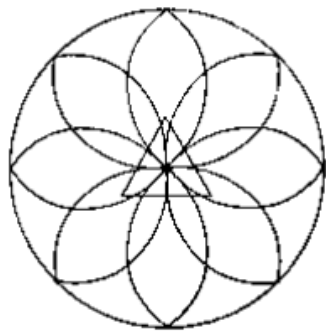
Much that I may say here may be familiar to a certain extent, because there is a vast amount of information anent the etheric body scattered throughout my various books. It will have its value however if students can receive in a few pages a general idea and the basic concepts which underlie the teaching—or should I say, the fact? If they have the time, students would find it of profit to re-read what I said; run their eyes rapidly through the books and papers in search of the word "etheric." They will never regret it. Life itself, the training to be given in the future, the conclusions of science and a new mode of civilisation will all increasingly be focussed on this unique substance which is the true form to which all physical bodies in every kingdom in nature conform. Note that phraseology.

【復習】センターとパーソナリティー

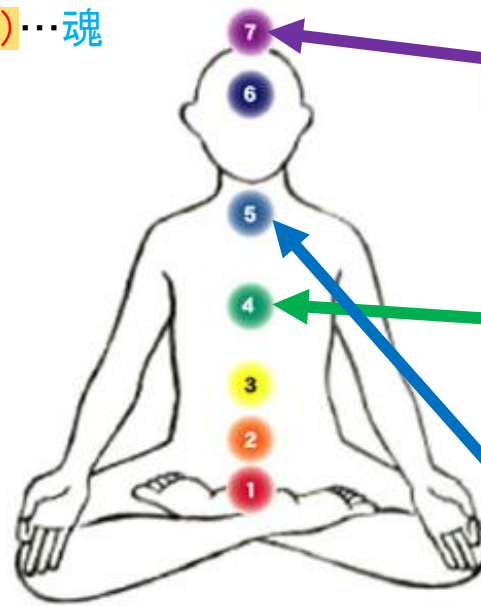
p.192:2行目以降

ここからは三界でのパーソナリティー生活における支配要因としてのセンターとそれらの相互関係について考察しようと思う。その際、以下のもの（根本注：以下に示す1～4のこと）との関連において、3つの主要な惑星センター—シャンバラ、ハイラーキー、人類—の1つとセンターとの関係という観点から、この主題について学ぶつもりである。

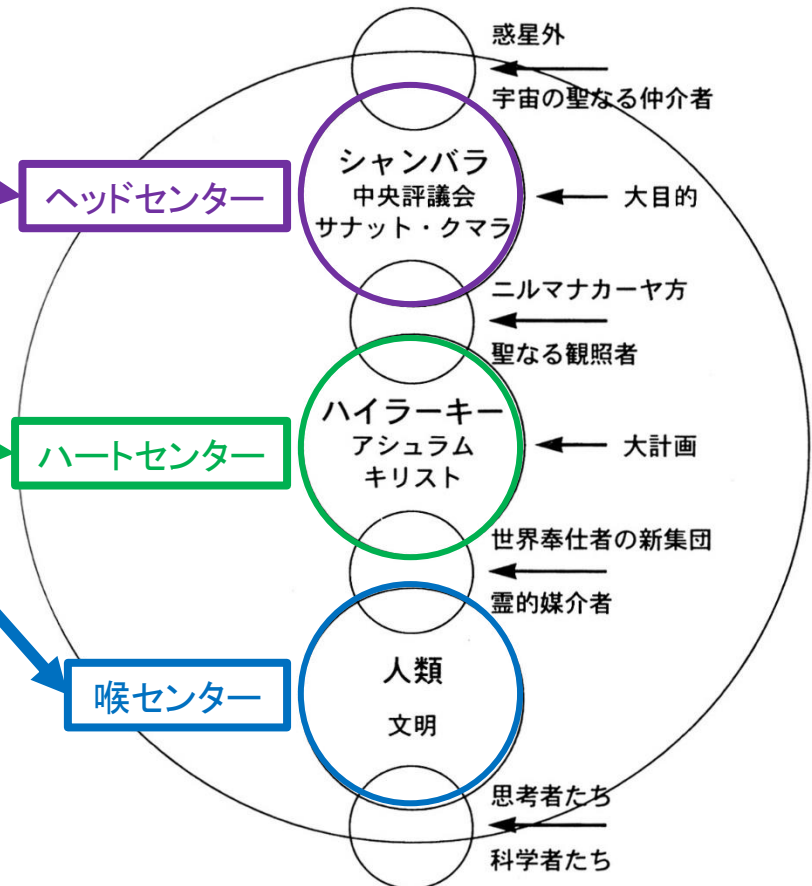
1. 中心にある点…モナド
2. 関連エネルギー(花卉)…魂
3. 放射領域(円)
…パーソナリティー
4. エネルギーの三角形
…霊的トリアッド



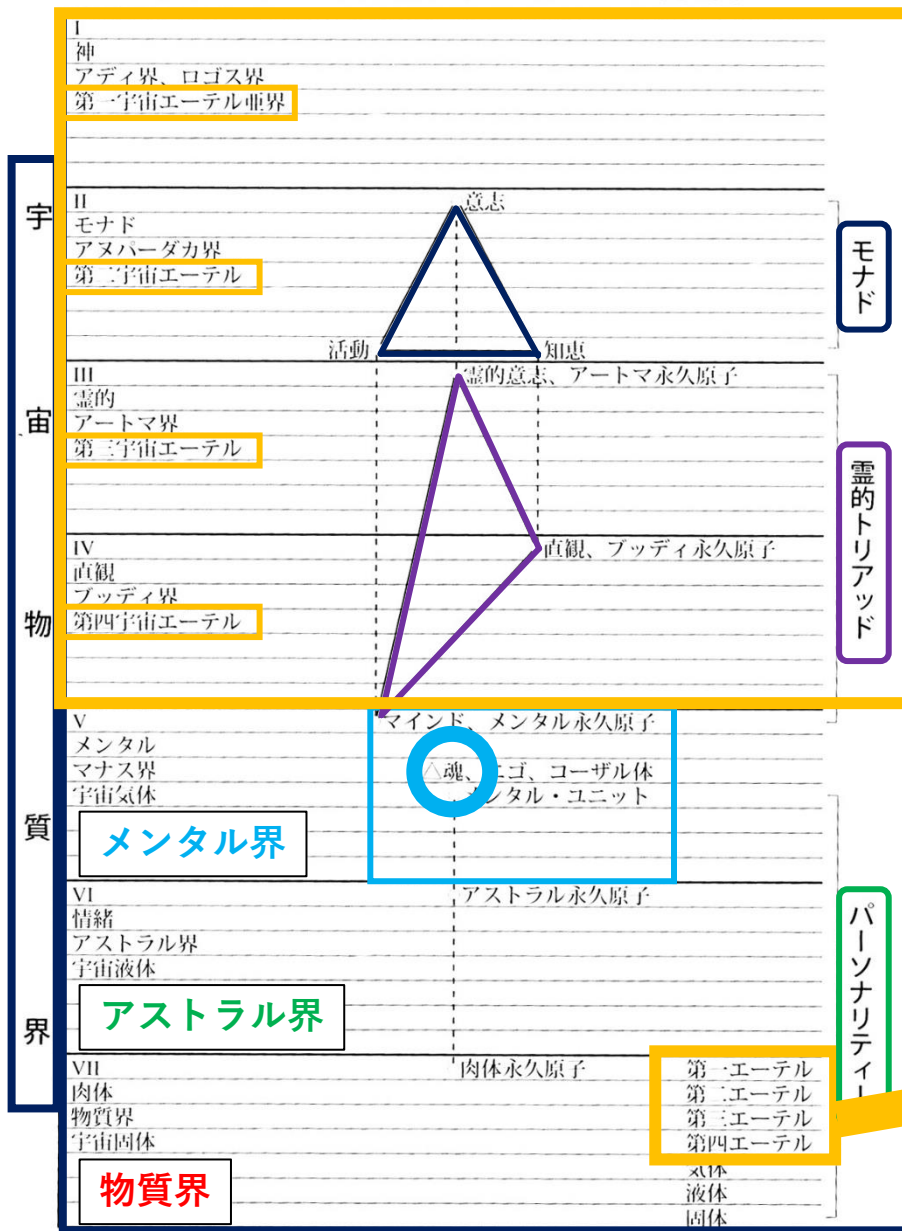
↑ 1つのセンターの象徴的な描写



↑ 人間のエーテル体に存在する7つのセンター



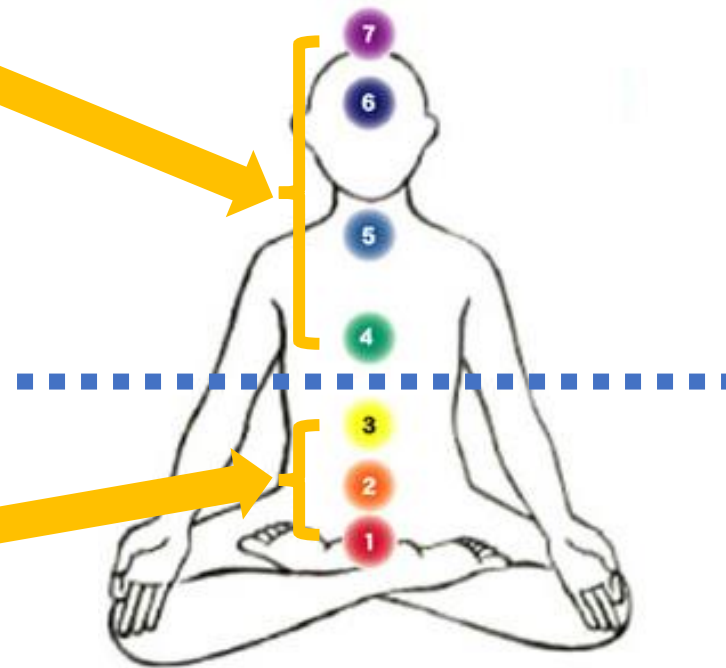
私たちの太陽系の七つの界層



【復習】『テレパシーとエーテル体』

p.192: 後ろから1行目以降

- 横隔膜よりも下にあるセンター、つまり太陽叢センター、仙骨センター、脊柱基底センターは惑星の物質界の四つのエーテルによって統御されている。
- 横隔膜よりも上にあるセンター、つまりハート・センター、喉センター、アジュナ・センター、ヘッド・センターは四つの宇宙エーテルによって統御されている。



人間の構造

段落構造に関する(一種の)誤訳？

p.195からp.202まで

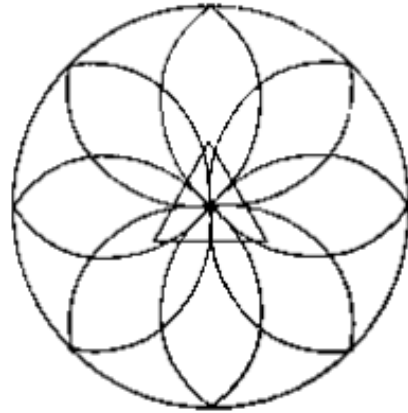
【翻訳書】

- 「1 中心にある点」から始まる段落から、「4 エネルギーの中心的な三角形」で始まる段落までのすべての段落において、「字下げ」されている。
- 具体的には、p.195の1行目からp.202の1行目まで。

【原著】

- 「1 中心にある点」「2 関連するエネルギー」「3 放射領域」「4 エネルギーの中心的な三角形」のそれぞれで始まる段落のみ、「字下げ」されている。
- 「字下げ」されている段落は、具体的には以下の通り。
 - 「1」: p.195の1行目から、p.195の後ろから4行目まで。
 - 「2」: p.196の後ろから7行目から、p.197の2行目まで。
 - 「3」: p.199の1行目から、p.200の2行目まで。
 - 「4」: p.201の後ろから8行目から、p.202の1行目まで。
- それ以外の段落においては、「字下げ」されていない。

人間のセンターの四つの様相



1つのセンターの象徴的な描写

1. 中心にある点…モナド
2. 関連エネルギー(花卉)…魂
3. 放射領域(円)…パーソナリティー
4. エネルギーの三角形…霊的トリアッド

【復習】人間のセンターの四つの様相①

p.195:1行目以降

1. 中心にある点…モナド

- 古い東洋の呼び方では「蓮華の中の宝珠」(= “jewel in the lotus”)。
- モナドがそれ自身を物質界に固定するための生命の点であり、すべての束の間の媒体の生命原理である。
- すべての可能性、すべての潜在力、すべての経験、すべての振動活動が包含されている。
- 存在しようという意志、(通常は愛と呼ばれる)磁力的な引力の特質、活発さと愛を完全な表現へともたらず活動的知性を体現している(根本注:モナドの第一様相の意志、第二様相の愛と知恵、第三様相の活動知性)。
- 存在するすべてである。
- 永遠の巡礼者を永劫にわたる経験の後に父の家へと帰還させる原因でもある。
- 意識の七重性質を表現する七つの「点」つまり「宝珠」があり、それらが一つずつ生き生きと表現されたとき、支配するモナド光線の七つの副光線(←根本には不明)が一つずつ顕現していき、その結果としてイニシエートである弟子はそれぞれ完全な外的栄光に包まれた神の子になる。

【復習】人間のセンターの四つの様相①

p.195:1行目以降

1. 中心にある点…モノド(続き)

- 個人のエーテル体が、この七つの点から発せられる光に覆い隠されて見えなくなり、頭部の千枚の花弁を持つ蓮華の「蓮華の中の宝珠」の光に彩られるときが訪れる。そのとき、それぞれのセンターが生き生きとした火の線によって関係づけられ、それぞれが完全な聖なる表現になる。
- 進化過程の終わりにはエーテル体のあらゆるセンターが、それまで常にそのセンターを用いようとしてきた基本的なエネルギーを生き生きと力強く美しく表現するようになる。
- しかし、それらのエネルギーは、物質的な生活にではなく聖なる生活に捧げられ、明るく純粹で光り輝くものになり、それらの光の中心点は人間の普通の目には感知できないほどの光輝を放つようになる。
- このような点は七つあるが、モノドが表現するのは神性の三つの主要な様相、つまり三つの主要光線(根本注:意志と力の第1光線、愛と知恵の第2光線、活動的知性の第3光線)だけであるため、このような「蓮華の中の宝珠」は三つのタイプしかない。

2023年8月16日(水)

『テレパシーとエーテル体』 4 惑星と人間のセンター

196頁、後ろから7行目
「2 関連するエネルギー」から始めます！

人間のセンターの四つの様相②

p.196: 後ろから7行目以降

2. 関連するエネルギー(=花卉)…魂

- 蓮華の「花卉」に関係している。
- 中心にある点は生命の点であり、永続し変わることはない永遠なるもの(= Eternal ONE)であるのに対して、関連するエネルギーは、永遠なるものが、時空間内における特定の段階で表現できる意識状態を示している。
 - 未開人の発達していない意識状態
 - 一般の人々の意識
 - 第三段階までのイニシエートの高く発達した意識
 - さらに高位位階のイニシエートのさらに活気に満ちた認識、など
- 中心にある点は第一様相つまり生命様相だけに関係しているが、花卉は第二様相つまり意識様相に関係している。
- 意識状態は、蓮華の花卉を構成するエネルギーの大きさ、色彩、活動に常に示されている。
 - 花卉の開花と発達は、年齢や魂を表現してきた期間の長さに加えて、支配する光線にも条件づけられる。
 - 相対的な「明るさ」の程度と性質もまた、転生している魂の思考傾向に加えて、その生涯における焦点に条件づけられる。

人間のセンターの四つの様相②

p.196: 後ろから7行目以降

2. 関連するエネルギー(=花卉)…魂(続き)

● 「エネルギーは思考に従う」

- 生得の焦点は、その人の思考傾向によって、もしくは彼が日常生活を意識的に生きているか無意識的に生きているかによって、極めて明確に相殺される。
- 意図的に思考の焦点を動かすことにより、生得的な焦点ではない、より高次のセンターに刺激を与えることができる。

- 進化の周期が終わりに近づいた時、すべてのエネルギーは十分な発達を遂げ活動的かつ力強くなり、イニシエートの接触メカニズム(←援助を必要とする人のセンターを、意図的な思考によって刺激する仕組み?)の本質的な面として意識的に用いられる。

- センターとは、弟子が援助しようとするセンターや個人に必要な刺激を与えるために、熟練した管理のもとでエネルギーを分配する焦点である。

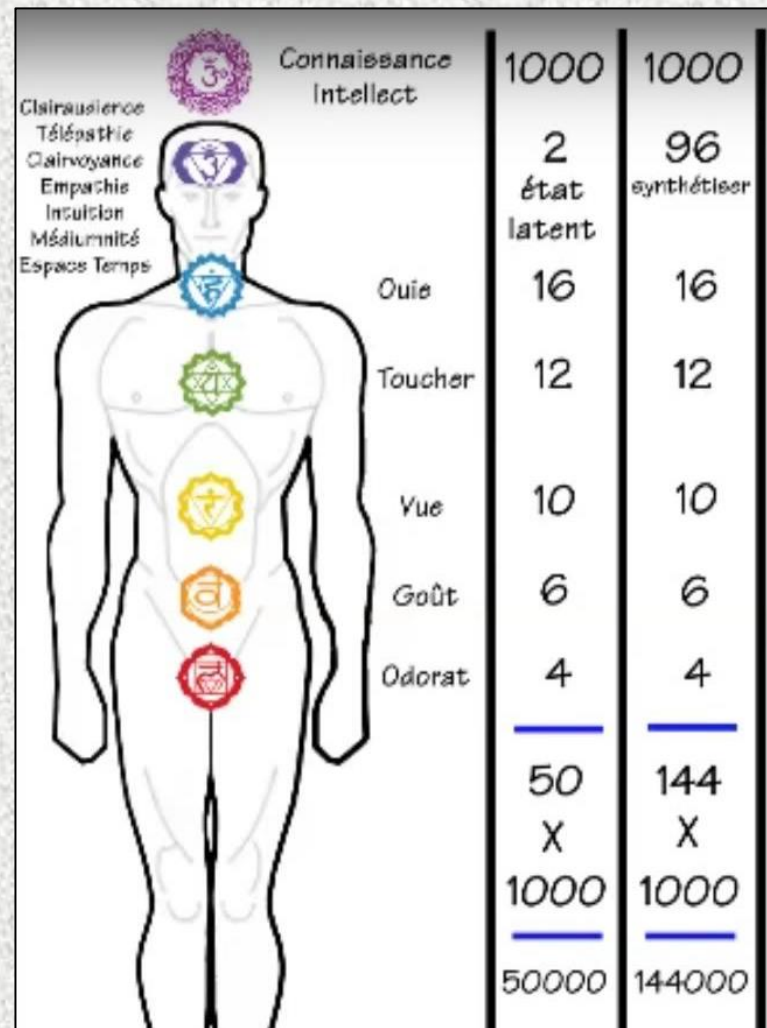
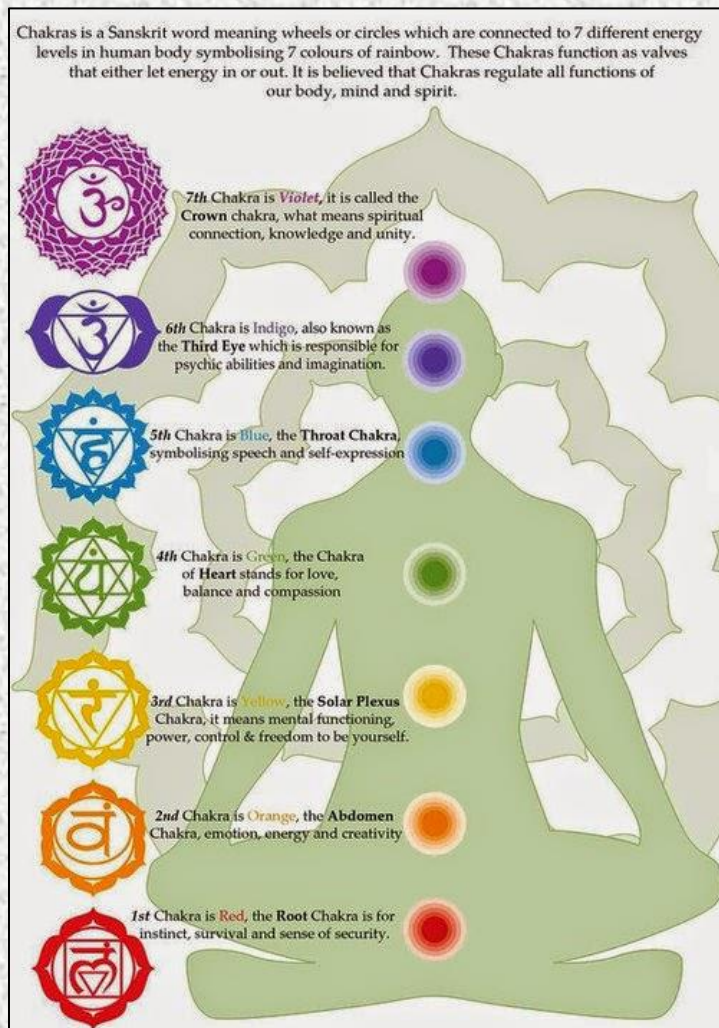
- この刺激は必要に応じて活気づけることができる。
- あるいは、故意に破壊的なものにし、援助されるべき人を質料や物質から解放するのを助けることができる。

- センターを奉仕で用いるという観点と奉仕でのエネルギーの集中と活用に、今こそ注目すべきである。花卉の枚数は、奉仕に役に立つエネルギーの数を示している(←根本にはこれが正しいかどうか不明)。

【参考】チャクラの花弁とシンボル



Om (or Aum)



【出典】

- <https://uniknols.blogspot.com/2014/06/meditation-on-chakra-symbols.html>
- <http://yantra.eklablog.com/144-000-p1218506>

新時代？

p.198: 後ろから3行目

- 【翻訳】来るべき新時代
- 【原著】coming New Age
- 【私訳】来るべき「ニュー・エイジ」

人間のセンターの四つの様相③

p.199:1行目以降

3. 放射領域(=円)…パーソナリティー

- ゆっくり徐々に活動へともたらされるセンターの影響半径、つまりセンターの振動による外側への効果に関係している。
- 人間のオーラは、これらのセンターやそれらの振動によって創造され、構成されている。健康オーラはこれとは異なる(【参照】p.116 本質的には肉体のもの)。
- オーラを表わし条件づけるのはエーテル体である。
- オーラは、情緒的メンタル的にパーソナリティーがどのような状態にあるか、魂によって統御されているかどうかを表わす、と見なされている。しかしながら、オーラは実際にはその人のセンターを示している。
- オーラを研究することで、いくつかのことを確かめることができる。
 - a. 発達しているのは横隔膜よりも上か下か。
 - b. センターが未発達であるか発達しているか。
 - c. 支配している光線の性質は十分に明確か。
 - d. 中心にある点や花卉が統御されているかどうか、バランスが達成されているかどうか。
 - e. パーソナリティーは外向的で活力のある状態にあるかどうか。あるいは、内省的で自己中心的であるため、もしくは死の過程がゆっくりと近づいているために、撤退しつつあるかどうか。
 - f. パーソナリティーと魂のどちらが統御しているか。二つの間の戦いが起きているかどうか。

人間のセンターの四つの様相③

p.199:1行目以降

3. 放射領域(=円)…パーソナリティー(続き)

- 放射領域は、奉仕の際の強力な道具であり、誓いを立てた弟子はその接触の範囲を拡大し純度を高めるべきである。
 - ペトロ「ペトロが通りかかるとき、その影だけで病人が癒やされた」
 - キリスト「自分の内から力が出て行ったことに気づいた」

聖ペテロのエピソード

【新共同訳】使徒言行録 5章12-16節

- 12 使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた。一同は心を一つにしてソロモンの回廊に集まっていたが、
- 13 ほかの者はだれ一人、あえて仲間に加わろうとはしなかった。しかし、民衆は彼らを称賛していた。
- 14 そして、多くの男女が主を信じ、その数はますます増えていった。
- 15 人々は病人を大通りに運び出し、担架や床に寝かせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその影だけでも病人のだれかにかかるようにした。
- 16 また、エルサレム付近の町からも、群衆が病人や汚れた霊に悩まされている人々を連れて集まって来たが、一人残らずいやしてもらった。

イエス・キリストのエピソード

【新共同訳】マルコによる福音書 5章25-34節

- 25 さて、ここに十二年間も出血の止まらない女がいた。
- 26 多くの医者にかかって、ひどく苦しめられ、全財産を使い果たしても何の役にも立たず、ますます悪くなるだけであった。
- 27 イエスのことを聞いて、群衆の中に紛れ込み、後ろからイエスの服に触れた。
- 28 「この方の服にでも触れればいやしていただける」と思ったからである。
- 29 すると、すぐ出血が全く止まって病気がいやされたことを体を感じた。
- 30 イエスは、自分の内から力が出て行ったことに気づいて、群衆の中で振り返り、「わたしの服に触れたのはだれか」と言われた。
- 31 そこで、弟子たちは言った。「群衆があなたに押し迫っているのがお分かりでしょう。それなのに、『だれがわたしに触れたのか』とおっしゃるのですか。」
- 32 しかし、イエスは、触れた者を見つけようと、辺りを見回しておられた。
- 33 女は自分の身に起こったことを知って恐ろしくなり、震えながら進み出てひれ伏し、すべてをありのまま話した。
- 34 イエスは言われた。「娘よ、あなたの信仰があなたを救った。安心して行きなさい。もうその病気にかからず、元気に暮らしなさい。」

人間のセンターの四つの様相③

p.199:1行目以降

3. 放射領域(=円)…パーソナリティー(続き)

- 放射領域は、奉仕の際の強力な道具であり、誓いを立てた弟子はその接触の範囲を拡大し純度を高めるべきである。
 - ペトロ「ペトロが通りかかるとき、その影だけで病人が癒やされた」
 - キリスト「自分の内から力が出て行ったことに気づいた」
- 集団を一つにまとめ、聴衆に耳を傾かせ、同胞へのある明確な取り組みにおいて個人を重要なものにするのはオーラであり、その引き付ける力と安定性である。
 - 過剰に発達した無制限な太陽叢を通して働く非常に情緒的な一人の人間が家庭や団体を破壊することもある。
 - ハートや喉のセンターを意識的に活用する光り輝く創造的な人生は、何百もの人々にインスピレーションをもたらすことができる。

人間のセンターの四つの様相③

p.199:1行目以降

3. 放射領域(=円)…パーソナリティー(続きの続き)

- **【重要】**これらの**センター**は、センターへの瞑想や集中によってではなく、ある主要な美德を培うことによって活動へと促される。
 - **正しい生活**、**崇高な思考**、**愛ある活動**によって、自動的に必要な放射状態になる。
 - これらの**美德**は、センターに望まれる放射活動を起こさせる上で非常に強力であり、科学的にも効果がある。
- 課題が実行され、**すべてのセンター**が外向性のある活発な放射活動の領域になったとき、**センター**は互いに**他のセンター**の活動範囲に影響を与え合うようになり、その結果としてイニシエートは、七つの放射するセンターの複合物ではなく、活力に満ちた光の一つのセンターになる。
- **【余談】**新約聖書における『一つの目』の解釈

【余談】一つの目 (Single Eye)

マタイによる福音書 6章22-23節

【新共同訳】

- 22 「体のともし火は目である。目が澄んでいれば、あなたの全身が明るいが、
23 濁っていれば、全身が暗い。だから、あなたの中にある光が消えれば、その暗さはどれほどであろう。」

【King James Version】

イングランド王ジェームズ1世の命令によって翻訳された聖書(1611年)

- 22 The light of the body is the eye: if therefore thine eye be single, thy whole body shall be full of light.
23 But if thine eye be evil, thy whole body shall be full of darkness. If therefore the light that is in thee be darkness, how great is that darkness!

【King James Version ⇒ DeepL翻訳】

- 22 「からだの光は目である。それゆえ、もしあなたの目が一つであるなら、あなたの全身は光に満ちなければならない。
23 しかし、もしあなたの目が悪であるなら、あなたの全身は暗黒に満ちなければならない。それゆえ、もし汝の内にある光が闇であるならば、その闇はいかに大きいか！」

人間のセンターの四つの様相④

p.201: 後ろから8行目以降

4. エネルギーの中心的な三角形…霊的トリアッド

- ブラヴァツキーの言う人間の「周期的な媒体」を条件づける3つの光線を示している ⇒ モナドの光線、魂の光線、パーソナリティーの光線
- 大師は、(根本注:これら3つの光線のうちで)どの光線が支配的な光線であるかを知ることができるが、大師よりも下位の段階にある人にとってはそれは可能ではない ⇒ 弟子や他の傍観者は放射領域の性質から推測しなければならない。
- 以下、根本には不明瞭
 - 決断の第6イニシエーションまでは、「モナドは2つの秘密を保護しているが、モナドが支配し、魂が次第に消えていくとき、3つを失う」
 - 【原文】 until the sixth Initiation of Decision, "the Monad guards two secrets, but loses three when it takes control and the soul fades out."
 - 前半は不明。後半は『モナドとパーソナリティーが直接関係づけられた時、三重の魂(霊的トリアッド:アートマ、ブッディ、マナス)は必要でなくなる(182頁:5行目)』ということの意味しているのではないか？

センターとパーソナリティーのまとめ

p.202:3行目以降

- 私はここでセンターに関する幾分新しい観点、つまり描写を示した。理解できさえすれば、これは非常に価値のあるものである。なぜなら、それはオカルトの本で提供されている情報とは全く一致していないからである。
- 私が述べたことを理解すれば…
 - 真剣に学ぶ人々は、センターを実際に応用しようという姿勢を取るようになるし、同胞に対して、自らの放射活動領域をより有効なものにするために確固たる努力をするようになる。
- なぜなら、客観的な物質の特質ではなく、主観的な霊の特質を表現しようという態度をとるようになるからである。
- エーテル体(物質的、質料的な体であり、物質界の不可欠な部分)は…
 - 無意識のうちに実験的に転生してくる段階 ⇒ まず第一に、情緒界とメンタル界のエネルギーをもたらす。
 - 意識的に経験を獲得しようとする段階 ⇒ 魂の三重のエネルギー(アートマ・ブディ・マナス)をもたらす。
 - アンターカラナが構築されるにつれて、神性を意識的に表現しようとする段階 ⇒ モナドのエネルギーをもたらす。
- 「霊的な過程の美しさ」と、「自分が来た中心へと帰っていくあらゆる段階において計画的な援助が人の子らに与えられていること」を知りなさい。

お知らせ

生命システム研究所

<https://life-system-labo.com/>

- ホリスティックヘルス情報室(降矢英成先生)主催 [ZOOM & 会場]

「ホリスティック 意識科学」連続講座

日時: ① 7月26日(水) 19:15~21:15 『宇宙究極の謎』とは?

② 8月23日(水) 19:15~21:15 『宇宙の創造原理』について

③ 9月27日(水) 19:15~21:15

『意識の定義』と『意識の二階層論』について

④ 10月25日(水) 19:15~21:15

現代の『意識科学』が現代社会に与える影響について

内容: 1時間30分: 根本の講義、30分: 降矢先生との対談

受講料: 2時間 × 4コマ 17,600 円(税込)

チラシ: https://www.hichelth.com/202307_hollshikiS.pdf

「ホリスティック意識科学」連続講座

① 7月26日(水):『宇宙究極の謎』とは？

- 「なぜ、この宇宙は無ではなくて、存在しているのか」という「問い」を、私は『宇宙究極の謎』と呼んでいます。私見では、この「問い」に対する「答え」は存在しませんが、「答え」が存在しないということから、興味深い一つの倫理的な原理を引き出すことができます。

② 8月23日(水):『宇宙の創造原理』について

- この宇宙には根源的には唯一の存在が存在していると私は考えており、その存在を私は『絶対無限の存在』と呼んでいます。『絶対無限の存在』は予測できない体験したいと思ったので、みずからを無数に分割した上に、分身のそれぞれに自由意志を与えました。分身の一つ一つが私たちである、と私は考えています。

③ 9月27日(水):『意識の定義』と『意識の二階層論』について

- 私は「意識」について、「『絶対無限の存在』から生まれた分身のそれぞれが、実際にこの世界を体験するために作られたシステムのことである」と定義しています。そして「意識」は物質世界のみならず、高次元世界にも存在しており、後者の「意識の本体」は死後も存続すると考えています。

④ 10月25日(水):現代の『意識科学』が現代社会に与える影響について

- 現代の『意識科学』においては、ほとんどの研究者が、以下の2つを前提としています：唯物論…意識は脳が作り出している／進化論…ヒトの進化過程のどこかで、脳が複雑さを獲得した時に、意識は創発した。私見では、いずれも誤りであるのみならず、これらの考え方は、現代社会において大きな悪影響をもたらしています。

満月ツインハート瞑想会

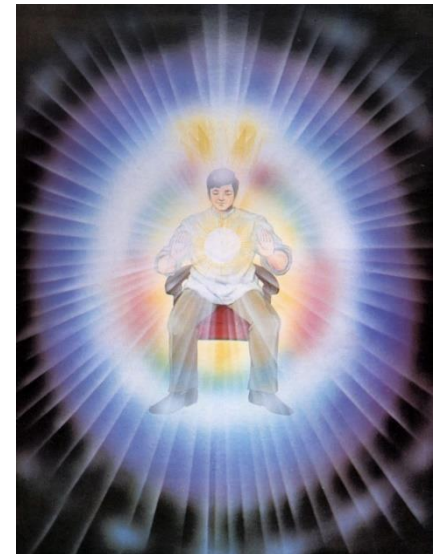
毎月満月の日の21時～22時に、ZOOM上で無料で開催します。
初心者大歓迎！ 聖なる愛と光を地球全体に送るための瞑想法です。

- 2023年8月31日(木)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年9月29日(金)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年10月29日(日)21時～22時、担当:根本泰行
- 2023年11月27日(月)21時～22時、担当:あんどうさわこ
- 2023年12月27日(水)21時～22時、担当:根本泰行

必ずウェブサイトから申し込んでください。

<https://life-system-labo.com/2022-3twinheart/>

2023年1月22日より、毎月新月の日の21時からアリス・ベイリー著『テレパシーとエーテル体』の読書会とシェア会を開催しています。ウェブサイトから申し込んでください。



シェア会

